

新京地下鐵道の調査に就て

橋本^{大阪}市電運輸部長談

滿洲國に於ては新京の地下鐵道案を急速に決定する事になり、大阪市への依頼があつたので市電氣局運輸部長橋本敬之氏は、同局の高速鐵道建設部の光井設計係長、岩田電氣係長以下9人の部員を同行して、8月7日大阪を出發渡滿同25日迄新京に滞在、9月1日歸阪したが、公務會議のため9月12日上京の途、往訪の記者に次の如く語つた。(編者)

新京は滿洲國の特別都市として、行政的に非常に權威のあるものであるから、その都市計畫は理想的に進められてをる。現在の人口は約10萬人であるが、將來100萬人を目標に各種の計畫を立てられてゐる。現在市内の交通はバスと馬車のみで、路面電車は全然ない、將來も路面電車は通さぬ方針の様である。

新京に於ては直木參議、宇市長、關谷副市長、武藤國都建設局長の諸氏と打合せの結果、新京市の高速度交通網を決定し、先づ延長14軒の第1期線を、建設の第1順位となすの案を立て、星野總務長官室で各關係官と懇談會の席上に意見を交換した結果、第1期線の概略設計を進める事になつた。而して同行の光井技師以下は2ヶ月の豫定で、既定方針により數量調査に當る事となつた。工事實行は未定であるが、新京地下鐵道の案を此所迄進めたに就ては滿洲國として種々な理由がある事と思はれる。

技術的に見ると、新京の土地は硬質の赤土で、掘鑿には10米位の切立にも耐へるのであるから良質と云つてよい。勿論地下水も少く路面下の埋設物も都市として理想的に敷設されてゐるから、道路の中央は障害物がない、路面には電柱が1本もない程整頓してゐる。

尙ほ便利な點は市街地は全部市有であるから、建設には市が自由に使用出来る事である



電力も吉林の近くに48萬キロの發電所を建設中で、昭和17年には送電可能であるから、低廉な動力が得られる。以上の様に新京の地下鐵建設は技術的に非常な好條件に恵まれてゐるから、建設費も日本内地に比し相當低廉な見込である。

唯現在に於ては資材と勞力を得るに困難な時代であるから、高速鐵道網の根幹の計畫丈を決定して、適當の時期に工事着手の事と思はれる。

歸路、奉天に立寄り鄭市長依頼の地下鐵計畫に就ても調査したが、現在奉天市は人口80萬人あつて、最近は年々10萬人を増加してゐるから、10年後を150萬人豫定として都市計畫を立てられてゐる。それにつれて交通幹線丈は高速鐵道も必要と思はれるが、新京に比し地質が悪く、砂質で地下水が多い、然しそれでも大阪や東京などより施工條件は良い様である。奉天地下鐵案も、新京に残つてゐる1行が委細調査する事となつてゐる(云々)